

## 下呂市立地適正化計画(素案)に関するパブリックコメントの結果

### 1. 概要

- (1) 募集期間：令和7年12月19日(金曜日)から令和8年1月19日(月曜日)まで
- (2) 閲覧数：456件(窓口:0件・ホームページ:456件)
- (3) 意見提出者数：2名
- (4) 提出意見数：3件

### 2. 意見内容及び意見に対する市の考え方

| 意見   | 市の考え方   |
|--|---|
| <p>この適正化計画では下呂温泉市街地が「中心拠点」「中心市街地」と位置付けられ、他の小坂、馬瀬、萩原、金山地域は「地域の暮らし推進区域」とされています。しかし、なぜ下呂温泉市街地が市全体の中で「中心拠点」および「中心市街地」と位置付けられたのか、その根拠が明確にされていないように思えます。市民に対して詳しい説明が必要だと思えます。また、下呂温泉市街地の「中心拠点」「中心市街地」だけが「居住誘導区域」「都市機能誘導区域」とされています。これによって今後下呂市内各地の都市機能が下呂の中心市街地にのみ誘導されることが大きな問題だと思えます。例えば、あさぎりサニールンドを下呂温泉病院がある上ヶ平に移転新築する計画があるようです。私は萩原の町の中にサニールンドを作って萩原地区を年寄りも子どもも混じって一緒に暮らせる居住地域にすると良いと思っています。下呂市街地(上ヶ平)に特養と病院を機能的な関連性で集約するだけでは下呂市の掲げる福祉のまちづくりにつながらないと思えます。このように立地適正化計画を理由にして下呂温泉市街地に主要な都市機能を集め、さらに巨額の投資を行なおうとする市の方針に疑問を感じます。下呂温泉街に温泉町としての観光機能を整備することは良いことですが、他の都市機能は別の旧町村に存在しても相互にネットワークされていれば問題ないと考えます。下呂市は豪雪地帯でなく離島を抱えた自治体でもありません。人口減少社会に向けた下呂市らしいコンパクトシティーの目標は下呂市街地に都市の機能を集中させることではなく、各地域の個性ある発展や市民の参加によって市民一人一人が生き生きと輝く姿にあると私は思えてなりません。</p> | <p>「中心拠点」の位置づけの根拠につきましては、本計画における拠点の区分は本市の上位計画である「下呂市第三次総合計画」および「下呂市都市マスタープラン」に即して設定しております。これらの上位計画において、将来の人口や生活基盤等を考慮し、観光・宿泊施設や商業・業務、公共公益施設等の都市機能が集約されている下呂地域を「中心拠点」、小坂・萩原・金山地域を「地域生活拠点」、馬瀬地域を「地域サブ拠点」と定義しており、本計画もこの方針に基づき策定しています。</p> <p>「居住誘導区域」及び「都市機能誘導区域」の設定と各地域の扱いにつきましては、「居住誘導区域」および「都市機能誘導区域」が下呂地域の中心市街地等によりのみ設定されている理由は、都市再生特別措置法により、誘導区域は原則として「都市計画区域」内に設定されるものであり、本市において都市計画区域が指定されている下呂地域において検討を実施しました。</p> <p>また、人口密度や施設等の利便性を考慮し、誘導区域を設定しました。しかしながら、ご懸念の通り他の地域(小坂、萩原、金山、馬瀬)の機能維持も必要です。そのため本計画では、制度上の誘導区域が適用されない地域についても、下呂市独自の「地域の暮らし推進区域」を設定しました。これにより、各地域の中心部を行政・医療・商業などの生活サービス機能を提供する拠点として明確に位置づけ、地域コミュニティや機能を維持していく方針です。</p> <p>上ヶ平地区への新築移転等につきましては、「上ヶ平地区 健康と福祉・スポーツと文化創造拠点整備事業」として、既存公共施設が集中するエリアに行政サービスや健康・福祉機能を集約し、効率的なサービス提供と多世代が利用しやすい環境づくりを目指すものです。また、現在のあさぎりサニールンドは施設の老朽化及び防災上の課題もあり、特に豪雨災害による被害を受けやすい場所に立地しているため、より安全な場所に移転することが重要と考えております。</p> <p>本市が目指す都市構造は「多極ネットワーク型コンパクトシティ」であり、中心拠点への一極集中を目指すものではありません。各地域の拠点(地域生活拠点・地域サブ拠点)の機能を維持しつつ、それらを公共交通やデジタル技術などのネットワークで機能的に結ぶことで、どの地域に住んでいても生活都市機能を利用しやすい持続可能なまちづくりを進めてまいります。</p> |

| 意見  | 市の考え方  |
|---|--|
| <p>ハード面の整備において、民間の力を積極的に活用して頂きたい。例えば、最低限必要な機能を下呂市が示した上で、それらの機能を含んだ施設整備を民間に募集をかけ、整備費や運営費を下呂市が補助した上で、基本的には民間が施設整備と運営を行っていく、いわゆる PPP／PFI 制度を積極的に活用してほしい。</p> | <p>本市におきましても、人口減少や公共施設の維持更新費用の増大が懸念される中、財政面および経済面において持続可能な都市経営を行うことは重要な課題であると認識しております。ご提案いただきました「民間の力の活用」につきましては、本計画の第 3 章において「民間活力による行財政の軽減を検討していく必要がある」との課題認識を示しております。また、これに対応するため、第 6 章「誘導施策」において「官民で連携したまちづくり」を掲げ、地域課題を住民・行政・民間が一体となって解決する方針を定めております。具体的な施設整備にあたりましては、ご意見にありました PPP/PFI の手法を含め、民間活力を最大限に活かした効率的で持続可能な整備・運営形態を、個別の事業計画の中で検討してまいります。</p> |
| <p>公共交通サービスの維持について、自動運転バスや自動運転タクシー、ライドシェア等の未来のテクノロジーを積極的に導入して、将来的には低コストで解決できる部分もあると思いますので、積極的に検討して頂きたい。</p>   | <p>本計画における公共交通施策は、関連計画である「下呂市地域公共交通計画」と連携・整合を図りながら進めることとしております。ご提案のありました自動運転やライドシェア等の新技術につきましては、「下呂市地域公共交通計画 2025-2029」におきましても位置づけております。本計画におきましても、この計画と連携し、新技術の活用を視野に入れた、効率的で持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指してまいります</p>   |